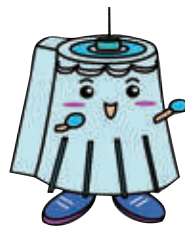


問合せ 水道事務所 ☎ 554-2269
FAX 554-2573

水道事業の決算報告

下水道事業の決算報告



令和6年度の水道事業収益は、10億180万円（税抜き）で、令和5年度と比べて1145万円増加しました。水道使用量は567万9670m³で、令和5年度と比べて2万5782m³減少しました。

水道事業費用は、8億3926万円です。令和5年度と比べて4095万円増加し、純利益は1億6254万円の黒字決算となりました。

建設改良工事などの状況

管路の耐震化を進めるため、送水管の二重化工事（延長6m）や既設の硬質塩化ビニール管の管種替工事など（延長2849m）を行いました。また、安全な水道水の供給のため、第1配水場揚水ポンプの更新工事や膜ろ過施設空気洗浄用コンプレッサの更新工事、緊急遮断弁操作盤用地震計更新工事を行いました。これらで、資本的支出の総額は6億8123万円となりました。

また、台風や大雨で河川が増水し住宅地へ水が逆流する危険があることから、これを防ぐため、那賀排水樋管ゲートを電動化し、離れた場所から監視・操作できるシステムを整備しました。

建設改良工事などの状況

令和6年度の下水道事業収益は、10億2436万円（税抜き）で、令和5年度と比べて8271万円増加しました。

年間の総処理水量は736万2401m³で、令和5年度と比べて44万9897m³増加しました。

下水道事業費用は、11億730万円です。令和5年度と比べて6004万円増加し、純損失は8294万円でした。繰越欠損金の3億8629万円と合計し、未処理欠損金は4億6923万円となりました。

建設改良工事などの状況

下水道施設長寿命化対策として、汚水管のテレビカメラ調査（1万2593m）や内面補修工事（565か所）を行いました。

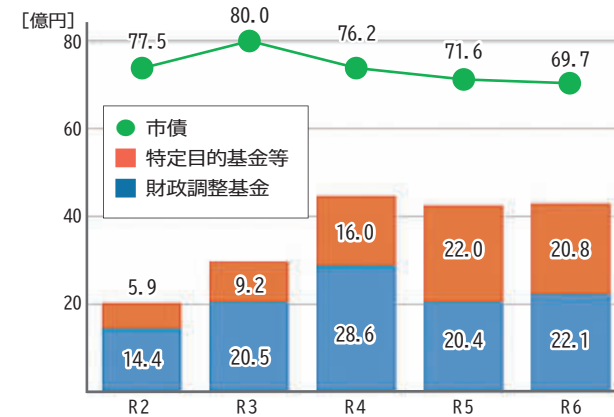
災害時の衛生環境の確保とトイレ不足解消のため、保健センターに災害時仮設トイレ用汚水枳を設置する工事を行いました。

問合せ 企画政策課 ☎ 313

令和6年度の主な取組みと結果（35事業・効果額201,018千円）	
施策1	新たな時代に順応した行政サービスの提供
	RPA・AI-OCR等業務効率化ツールの運用拡充
	・事業所課税入力業務や催告一括納付書発行業務など5つの業務で運用開始
	富士見霊園区画墓地の増設
	・小規模区画墓地の増設（1.0㎡区画6区画、1.5㎡区画18区画）
	・既存返還墓地の分割（6.0㎡区画を3.0㎡区画12区画に分割）
	官民連携の推進
	・包括連携協定の締結（西武信用金庫）など
施策2	健全な財政運営
	健全な財政運営
	・枠配分方式による予算編成における事務事業の見直し（効果額78,988千円）
	官民連携の推進
	・企業版ふるさと納税の実施（効果額3,434千円）
	クラウドファンディング・ネーミングライツの活用
	・ネーミングライツの活用（効果額6,000千円）
	返礼品を用いたふるさと納税の推進
	・返礼品を用いたふるさと納税の実施（効果額1,606千円）
	公共施設等総合管理計画の推進
	・市有地の売却（効果額17,615千円）

※このほかの取組みについては、市公式サイトをご覧ください。

基金残高と市債残高の推移



※財政調整基金…年度間の財源の不均衡を調整するための基金

基金・市債・一時借入金の状況

	令和6年度残高	前年度比	市民1人当たりの額
基金	42億9,169万円	+4,721万円	7万9,291円
市債	69億7,130万円	△1億8,418万円	12万8,798円

※令和6年度は一時借入を行いませんでした。

主な財政指標

区分	R4年度	R5年度	R6年度
経常収支比率	95.6%	98.5%	94.5%
公債費負担比率	5.9%	5.8%	6.0%
財政力指数	0.926 (0.943)	0.938 (0.930)	0.910 (0.925)

※財政力指数の（ ）内の数値は3か年の平均値

健全化判断比率

区分	令和6年度	早期健全化基準 (110-カード)	財政再生基準 (レッドカード)
実質赤字比率 一般会計等の実質赤字の比率	—	13.01%	20.00%
連結実質赤字比率 すべての会計の実質赤字の比率	—	18.01%	30.00%
実質公債費比率 公債費および公債費に準じた経費の比率	1.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率 地方債残高のほか一般会計等が将来負担すべき実質的な負担を捉えた比率	—	350.0%	—

※実質赤字比率および連結実質赤字比率は、赤字額がありませんでした。

※将来負担比率は、実質的な将来負担額がありませんでした。
■資金不足比率（水道事業会計および下水道事業会計との資金不足の割合）はありませんでした

基金・市債・一時借入金

- 補助費等（団体などへの助成金や一部事務組合負担金など） 115.2%減
- 投資的経費（社会資本形成となる建設事業費） 1138・8%減
- ◎基金…家庭でいう「貯金」にあたります。
- ◎市債…家庭でいう「借金（ローン）」にあたります。公共施設の建設などに必要な費用を、将来その施設などを利用する世代にも負担していただくこと

財政指標から見た羽村市の状況

◎経常収支比率

経常的な経費（人件費、扶助費や公債費など）に、市税などの経常的な一般財源（市が使途を決められる財源）がどの

で、住民負担の世代間の公平を図る役割などがあります。

◎一時借入金…一時的な現金の不足を補うために借入れる資金のことで、その会計年度内に返済します。

くらい使われたかを表す比率です。この数値が高くなると、財政の弾力性が失われると言われています。多摩26市の平均は91・2%で、羽村市の比率は26市中10番目の高さです。

◎公債費負担比率

公債費（借金などの返済）に一般財源がどのくらい使われたかを表します。一般的には15%を超えると黄信号、20%を超えると赤信号とされています。

◎財政力指数

この数値が高いほど財政力があるとき、1を超えると国から普通交付税が交付されない不交付団体となります。

健全化判断比率から見た決算の状況

令和6年度決算をもとに算定した比率は左の表のとおりです。いずれも早期健全化基準を下回る適正な水準でした。

他団体と比較する場合は、その年度を含めた過去3か年の平均値を用います。多摩26市の平均は0・975です。

行財政改革に
取り組んでいます



▲市公式サイト